

# 案件化調査

## インド国自走式ジャガイモ収穫機普及に向けた案件化調査

### 企業・サイト概要

- 提案企業：東洋農機株式会社
- 提案企業所在地：北海道帯広市
- サイト・C/P機関：パンジャブ州園芸局



### インド国の開発課題

- インドは世界二位のジャガイモ生産国であるが、収穫が手作業の為、歩留まり率が悪い。要員確保も困難化しつつあり、農民所得向上を阻んでいる。
- 圃場の特殊性(水田と畑が混在)から、ジャガイモ栽培システムの技術普及が進んでいない。

### 中小企業の技術・製品

- 道内向け収穫機をベースに、本州の小規模圃場向けに開発された自走式ジャガイモ収穫機。
- 欧米製の大型収穫機に比べて機動性に優れ、歩留まり率が高く、水田と畑の混在するインド北部の狭い圃場に適している。

### 調査を通じて提案されているODA事業及び期待される効果

- ジャガイモ栽培システム(貯蔵・品質管理、マーケティング、灌漑施設整備等)の技術普及を通じた農業生産性の向上、農民の所得向上が達成される。
- 官(州政府)が農民の機械購入の奨励金対象を拡げ(ツーステップローン等により)、民が農業機械や農業技術を提供する官民連携プログラムを実施することで、機械化が推進され、農業の生産性向上が達成される。

### 日本の中小企業のビジネス展開

- 部品の多くを現地調達し、現地メーカーとの合弁により低価格モデルを投入することで、現地進出を図る。同時に、ジャガイモ栽培システムの技術協力や上記の官民連携プログラム(ODA事業)と連携し、現地での製造・販売を加速させる。